

平成27年度事務事業評価シート		該当事業(評価対象外事業は基本情報のみ記載)		
		一般事務	公共建設事業	評価対象外事業
事務事業名	スマートIC整備事業			
予算科目	8 款 2 項 5 目			
総合計画での位置付け	都市基盤の整備 道路・交通基盤の整備			
所管課情報	担当課:	土木管理課	電話番号(内線):	578
記入者情報	所属長:	木曾 信之	担当責任者:	福井 剛志
事業の性格	法定事務			
実施期間	【開始年度】平成 26 年度 【開始年度】平成31年度			
事業の対象	地域住民及び関係機関			
根拠法令等	高速自動車国道法、スマートインターチェンジ整備事業制度実施要綱			
事業の目的	過疎化、少子高齢化が急速に進行する中山地域にスマートインターチェンジを設置し、交通の利便性の向上、災害時における救援救護ルートの確保、救急医療機能の充実・向上等を図ることにより、地域の振興・活性化に資する。			
事業の内容	(仮称)中山スマートICを整備するとともに、併せてスマートICに連結する市道日尾野引坂線の拡幅改良を実施する。			
改善策の 具体的 取り組み (当初)				
改善策の 具体的 取り組み				

事業費及び財源内訳					
項 目		26年度決算	27年度予算	9月末の執行状況	27年度決算
事業費	直接事業費	10,223	80,422	265	43,987
	人件費	3,977	24,126	12,063	24,126
	合計	0	104,548	12,328	68,113
人件費 内訳	人工数	0.50	3.00	1.50	3.00
	人件費単価	7,954	8,042	8,042	8,042
	補助事業人件費	0	0	0	0
	人件費	3,977	24,126	12,063	24,126
財源内訳	国庫支出金	5,886	35,652	0	22,602
	県支出金	0	0	0	0
	地方債	4,300	23,900	0	14,900
	その他	0	17,291	0	4,932
	一般財源	4,014	27,705	12,328	25,679

事業活動の実績(活動指標)					
項目	単位	26年度実績	27年度予定	9月末の実績	27年度実績
スマートIC(ON・OFFランプ)整備済延長	m	0	0	0	0
市道日尾野引坂線整備済延長	m	0	0	0	0

向こう5年間の直接事業費の推移						
年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	5年間の実績
	300,094	156,200	161,100	145,053	0	762,447

成果指標				
成果指標	整備率(%)=(スマートIC(ON・OFFランプ)整備済延長+市道日尾野引坂線整備済延長)/(スマートIC(ON・OFFランプ)計画延長+市道日尾野引坂線計画延長)			
指標設定の考え方	関係2路線の計画延長に対する整備済延長により整備率を計る。スマートIC(ON・OFFランプ)計画延長:514m、市道日尾野引坂線計画延長:840m【平成27年5月現在計画延長】			
区分年度	26年度	27年度	28年度	目標31年度
目標	0	0	0	100
実績	0	0	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	スマートIC区間の調査・測量についてはNEXCO西日本四国支社へ委託。連結道路となる市道日尾野引坂線改良は市で調査・測量を行い、用地買収及び損失補償業務については、スマートIC区間・市道区間とも、市が行うこととなっており、各業務で事業主体が異なることから、定期的な協議の場を設けることなどにより、双方の意志疎通が必要となっている。また、国道56号との取付や交通安全対策の分野においては、国土交通省や愛媛県警察との協議・調整を要することなどから、本事業の進捗に当たっては関係機関との情報の共有を図り、連携を密に事業を進める必要がある。また、本事業は第1次総合計画において、基礎的条件の整備(道路・交通基盤の整備)に位置付けられており、本事業の推進により、産業や市民の交流・連携の強化に寄与するものである。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	ネクスコ西日本の詳細設計が遅れており、ランプ部の用地幅、面積が確定していないが、既設市道分の出来る範囲から地籍図作成、用地買収費用、補償費用を算定すること。併せて、全体事業費を算定して工事スケジュールにあった国費要望を行うことが重要である。当箇所は簡易水道がなく、個々の世帯で井戸を掘ったり、山水を活用して飲料水を確保している。スマートICの整備でほとんどの井戸が潰れるため、早期に代替え施設の交渉、契約をする必要がある。大雨時には下流部の水路が溢れたり、溢れそうになったりすると地元関係者の田んぼの受益者から聞いているので、その対策について十分な話し合いも必要である。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮る。
意見、課題	行政評価委員会抽出事業 (二次評価者コメント) 色々な問題が山積しているが、平成31年度の供用に向け邁進することを求む。

行政評価委員会の答申

<p>外部評価 (行政評価委員会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の目的は地域の活性化なので、成果指標は中山への来訪者が増えたとか地域の売上が増えたとかにすべきである。 ・インターチェンジ整備に向けた工程が幾つかあるはずなので、今年度予定していたものがどれだけ実現できたか数値化して埋めれば、どれくらい進んでいるか分かりやすくなると思う。 ・西日本高速との分担になると思う。早期整備のため、独自にできる周辺市道の整備から進めていただきたい。 ・水脈の問題は、ある程度見通しながら、工事と同時進行でやっておかないといけない。 ・整備済み延長の実績がないのなら、活動実績には直接事業費の内訳や委託金が幾らというのを載せると分かりやすい。
---------------------------	--

経営者会議の最終判断

<p>事業の方向性</p>	<p>さらに重点化する。</p>
<p>意見、課題</p>	<p>クラフトの里の道の駅化も合わせ、平成31年末の供用開始に向けて重点化すること。</p>